



古今俳諧明題集

秋之部

中村俊定文庫
文庫 18
409
3



徳文庫

古今俳諧明題集煉部目錄

六月五日	初葉	七夕	二	七夕	二
七夕雨	二	銀灯	二	七夕鞠	三
文殊會	三	借水寺子目清	四	靈祭	後四五
暮春	五	身靈	五	花砲	七
踊躍	六	三井古女後	七	送峯入	八
傾入	七	林善入	七	霧	九
残暑	八	露	ハ	海伊	後十五
熱肉	後九五	初暴風	十	煉螢	十一
角觥	十一	煉鷹	十一	茅細	十二
秋涼	十一	海奴	十二		

古今俳諧明題集煉部目錄

目錄一



精輪	後十二玉	阜螽	十二	蟋蟀	十四
紡績姑	十四	金透兜	十五	久於蟬	十五
獨角仙	十五	天牛	十五	虫	十五
赤年花	後十五 至十六	敗留	後十六玉 十七	花敗留	十七
荷	十七	蘭	十七	花枝花	十七
秋海棠	十八	旋復花	十八	桔梗	十八
野菊	十九	馬唐	十八	女青	十九
芭蕉	十九	鬱金花	十九	雀麥	十九
早稻	廿	萩	廿	稻花	廿
冬瓜	廿	海苔	廿	西瓜	廿
		壺蘆	廿一	西瓜	廿一

刀豆	廿一	海苔	廿一	蕃椒	後廿一玉
毛桃	廿二	一葉	廿二	荻柳	廿二
木樨	廿三	二百十日	廿三	八角	廿三
釋奠	廿四	海苔	廿四	摺扇	廿四
三日月	廿四	司石	廿五	月	廿五
名月	後廿五玉	十五夜雨	廿七	叔生去	廿七
沼駒	廿七	初潮	廿八	放水	廿九
案山子	後廿九玉	形海	三十	野和義	後三十玉
常紅お田氣	廿二	和多理宅里	後廿二玉	雁	廿三
加樵省	廿三	桑鳥	廿四	湖木鳥	廿四
鶉	廿四	鴨	廿五	鶉	廿五

古今行次月更集卷之三
目錄二

瓜 卅五
 鱈魚 卅七
 子 卅七
 下藥 卅八
 翠轉眉 卅九
 雞冠花 卅九
 芒花 四十
 藍花 四十一
 零餉子 四十一
 牛蒡根 四十二
 苗茶根 四十二

鹿 後卅五
 鮫 卅七
 老饅頭 卅七
 鱈鱗藻 卅八
 鳳仙花 卅九
 麻本紅 卅九
 薑花 四十
 牡丹根 四十一
 芋 四十一
 雲苔子落 四十二
 茶根 四十二

鮫 卅七
 海龜根 卅七
 杜父魚 卅八
 芝 卅九
 紫苑 卅九
 芒 四十
 薺花 四十一
 蓮實根 四十一
 芋 四十一
 本賊刈 四十二
 苦冬根 四十二

茯苓劊 四十三
 五瓜 四十四
 匏 四十四
 沼出根 四十五
 野文別 四十七
 長衣 四十八
 新酒 五十
 霏 五十一
 地 五十二
 地 五十二
 泥唐 五十三

薑草 四十三
 葡萄 四十四
 木芙蓉 四十五
 九日并菊 後四十五
 十二衣 四十七
 衣 後四十八
 魚鱗打 五十一
 紫城毛尾 五十一
 爵人大水烏蛤 五十二
 茶 五十二
 松玄皮 五十二

桔梗 四十四
 白葵 四十四
 本犀 四十八
 泥鏡像 四十八
 宝市 四十八
 揚衣 五十
 露衣 五十一
 熊鍬 五十一
 紅葉解 五十二
 紅葉 五十二
 南七濁 五十三

古今片羽明彙集卷之三

目錄二

賽珊 五十四
 棧 五十四
 柑 五十五
 回青橙 五十六
 榧子 五十六
 焯夕 五十七
 栗 五十四
 梨 五十四
 包橘 五十五
 緩陰柑 五十六
 榧子 五十六
 夢路 五十八
 橡子 五十四
 松栢 五十五
 重栢 五十五
 小抽 五十六
 菓 五十六



古今俳諧明題集秋部

六月立焯

年法うちの喜けい存一喜さる焯 涼備
 おしりけい焯ハ入り夏去うち 全
 げ月ハ焯侍もり水てあつさう那 全
 燻く焯もあく夏秋涼みう那 京 巴 白
 焯伊の来て間汁や作 生く 音 藍

初焯 たいあき

たいり帆の夏い焯を初めり季 涼 兔
 湯育のを吹消してりさる焯 麥 林



控おさにまゝの船のちゝや備かた打戸
吹落ふきおる雲にまあるくはるる船
舟ふねとて新本伝の馬やと船の船
海うみきりや極たぎをささきよま
相あひの乗のりは精識モウシの海やまきさる船
蒲よもぎ菫すみへぬりにまゝりりさの船
浮うきの名は一色みえくそ船も秋
庭にわももかりふわりはは煉
徑みちは地海ツタもまほやそ船の船
大江おほえにも一葉のふびやそ船の船
拾ひろふりど油あぶらもまゝりそ船の船

涼すず傳
全ぜん
李り北
瀾らん傳
如ごと伝
作つく至いた
紫むら苑
可か卿
伊い勢せ
其その江
同どう山さん田でん
已い舉きよ

愈いもいひひきとて火くそ船も秋
海うみたのやるるの内へ入いり
月つき影かげを刺さきま本にまゝ船の船
初はつ船ふねは行ゆひと船や秋あきの音ね
あしらえぬやにまあるそ船も煉
何なにれもま針はりに入いりまゝ船も海
さし馬うまもろ水みづもしけさはあや
蓮れんの花はなはあかにあまきさる船
暮くれ夏なつの何なにもをらまゝ船の船
瀛おの帆ふねも一合いっごう減へやうさ船の船
夕ゆふられもまゝりそ船の秋

同どう山さん田でん
百ひゃく川せん
江え西せい
江え采さい鳳ほう
布ふ川せん
上かみ野の古こ橋はし
胡こ曉せう
しし孫そん
江え雨う篁そう
江え正せい朔しやく
伊い山さん
凉すず傳

七夕 シチセキ

紅ききりどせや星の別きよき
 希因
 静やおのがしやハハハハハ
 涼儀
 親のあはれこころやし星を恋
 全
 星の恋ん向まうてあハたしど
 雲郎
 言は家あえく川あり星の恋
 水
 身牛に宿ふてハあはれ星は恋
 趙砂
 そ乃河で寝あはれ星のあは
 玉負
 おりよこころにきせく星はし
 一紅
 牛で来は氣も後うむ星の恋
 全

七夕雨 シチセキ

牛の傘をがめてや橋をく
 支考
 天園や雨にふて夕々二のほ
 涼儀

銀河 あまの

さいせいのあはれに夕々あまのかハ
 其角
 徹くさいいほハながあ未は下波
 鬼士
 あはれ人にせんく飲ませ下の河
 珈凉
 せに水くさぬ水や下のとく
 梅路
 飛つ星の使はあげーの海をかは
 青藍

赤玉棒をもちつらゆぐりて来るは
新波くぐりて出て出たり天の河
地に疾流橋の比羽矣やあまはか
さく流りて早もろおほさよ流

七夕 鞠のまじり

斜穿鞠の衣ぬきぬぎのや似小袖
織女もももえもゆるし鞠はき

文殊會

文殊の言もや流し牛に京
京 仙 降

文殊今や意に思き思ハか
鬼貫

清水寺千日詣

出まじひのあでふ日まじり
け流りの花を屋つくり

霊祭

東海くゆく日の短はよ果まはり
是つぎに正源駒や瓜をまじ
霊柳や煙せむかへ草はくげ
好おハ青く些したまはつ甲

東 池にくのり〜や靈 古由
 買 柳や杉ハかぶれど水も〜 平胡
 目に見えぬこのいそが〜 買 桑 麦林
 買 桑皆さ〜い前には〜ハ 野坡
 待てむ来ぬ時ありれたまはつ〜 希因
 海の日此志ほ〜む侍や買まは〜 桐原
 今起〜確〜ぬ 敵や多末は〜 双飛
 藤まのり〜ぬ〜りや靈まつり 三四坊
 物者ハ難〜を〜荒〜たまは〜 玄舟
 土 盤に味舌のつく日や買まつ〜 吟詩
 西 行よ今理り〜老は〜買はつ〜 一扉

赤〜らへ〜海の家や 多末後都理 李北
 水くけに壻ハ来に〜り靈まつ〜

墓 参 参

墓 参の家につくやは〜は〜 東起
 上卜法亦ふぬ〜つ〜墓まぬり 石見太田 参岸

生身 靈 霊

生身 靈のより馬〜さ〜ひや生身 霊 汶 村
 生身 靈貝の杉子〜さ〜し〜 参

古今集卷之三

燈籠

谷くにあハ寺あア言^{天燈}燈籠
 山寺ハ吊^{ツル}桶も言^{走馬燈}燈籠
 あけく^{ヤミ}時あはく^{ツル}燈籠
 又^ハ空^ニよめ^く言^{走馬燈}燈籠
 消^ハ小^ハ言^{走馬燈}燈籠
 葉^松樹^ニ突^ノい^はび^や言^{走馬燈}燈籠
 出^{逆旅婢}女^も言^{走馬燈}燈籠
 ちり^まの^くく^まろ^め言^{走馬燈}燈籠
 茅^相を^静め^に昇^は言^{走馬燈}燈籠
 吹^くは^は言^{走馬燈}燈籠

江夫 一 艸 艸 楚雀 星斗 州 州 去路 画洲 日

踊り

を^り子^や款^のる^心を^度げ^つ
 お^{サガ}披^きうち^に文^{ゆく}踊^り那^那
 白^{ツキ}曉^の星^{見え}涼^むを^ど言^{走馬燈}燈籠
 阿^ふぶ^く言^{走馬燈}燈籠
 静^に来^く神^めの^志ぬ^を言^{走馬燈}燈籠
 伊^ハ今^あく^言言^{走馬燈}燈籠
 愛^旅況^を言^{走馬燈}燈籠
 旅^好の^言言^{走馬燈}燈籠
 飛^ぶ言^{走馬燈}燈籠

禹洗 汶上 南斗 東起 以言 柎波 榎雪 五綾 其梅

古今集卷之三

松板にこそとありせしをどりて
船しい船にるるをどりて
巴^{シヤウジ}は時^{トキ}紙^シ摺へるをどりて
舟を十^トのけしをどりて
沼^ヌぬく目に身もまどりて
角^{スモトリ}鯨人の骨もやりて
お衣をりてのどろ^{ドロ}の那
糸^{イト}結^{ムス}み髪を見にゆく那
をどり子や故に故のまどりて
回^{マユ}しと志^シてはゆ^ユくをどりて

沅水
可卿
可^カ由^ユ
樓^{ロウ}川^{ケン}
兔^ウ士^シ
雲^{ウン}府^フ
一^{イチ}承^{ジョウ}
凉^{リョウ}依^イ
全

三井寺女詣 このてらを
んかまうで

三井寺中^{ミヅイ}女^メ詣^{ヨミ}も むく 汝^ニ

花炮 はな

いろくの草を見て^サ散^チく花^ハ炮^{パウ}
身^ミぬさぐ人も^{ヒト}来^キて^テ花^ハ炮^{パウ}
際^{サヘ}くの^ノ藤^{フジ}く^クも^モ来^キて^テ花^ハ炮^{パウ}
湯^ユ土^ツの子^コは^ハ花^ハ炮^{パウ}
根^ネにも^ニ花^ハ炮^{パウ}
園^{エン}にも^ニ花^ハ炮^{パウ}

大和
千代
去^ク路^ロ
阿^ア板^{バン}
野^ノ草^{クサ}
萩^{ハギ}丈^{サテ}
李^リ郷^{キョウ}

古今集卷之三

頌 入のり

つと入やまの蓋にひらちがひ
はと入やうの門帷を揚ぐ是
つと入やホエひらちの拂蘇物も出ぬ
朝入の雨露とひらちもあつさり

笑林
伊勢山田
宗乙
冠子
赤
之梅

好林 入あきのや
ふいり

やぬいりや彌海妹に去る障籠
林葉入や木の石は月もあつさり

雲和
木竹

送 家入ふやくの
ミ孫いり

家入や芳を睫にくひ去むる
日ハ西のけささにはさや一溜の露
いり入や麻拾ふく林うつ我

汶上
白水
一嵐

残 暑のこさ
あつさ

沼の部にあが水くさいは暑さ水
けしち小のうねあつさやけしち
おる水く麻にぬぐあつささ
砂沼の底に水く暑ささ
川中に行者の跡はあつささ
鶴ニギハまぐ海へ麻に行暑ささ

素園
胡周
和鳴
李趙
一鼠
梅路

古今集卷之三

古今和歌集卷之三

紫は夏もささく 勲うさぬあつさか
夏艸の^{サカ}おほむら 海は河つさうか
蕨の^{ニメカラ}よりけけ 布はあはさか

経 壺
一 鹿
武 詩 如 竹

露 つゆ

あゝあや梅にえさす 露うつ山
かあや野さの 髪はくはくし
土^{カハラケニ}盤^ハ 赤あまんとくく 夕何く
——らあや葛に 雪が青く 藍く
海の色は 水はくはく 朝あま
吹あく月と 茶と 羊と 赤

荷 兮
李 北
系 右 祇
正 俊
西 羊

朝あや歌に 月日を 空かへ歌

上 柳 兮

露 ささ

朝あや梅^ハ 法^ハ 吐く 歌を 吟ぶ
朝あや 踊す 夕の 夕あく 由く
柴^ハ 取^ハ 柄^ハ のは 一は 露の 中

藤 春 子 吟
久 里
下 有

熱 閃 び

いあづまや 山と 麻を ぬき ゆく
熱 閃や 二 三 夜に 見て くる 茶
いろの 茶や 伽藍 小 して 又 嵩

希 困
病 文
閑 上

古今和歌集卷之三

心なげまの齋スをぬスとや水ミと
 いろづまや時トキの河カハを流ナめく流
 いろづまや後のナハテも見えミえスとスり
 熱アツ閃ハや室ムロにもモもモぬスまマのウまマ
 いろづまや紙シ抽ヒキ軍イクサのウまマとスり
 いろづまの来キ侍シとス見えミえスかハへスり
 いろづまや野ノ中のナカのノ松マツにニ行イあハへスり
 熱アツ閃ハのカキ輪ワやちチづツとスあハのアりハらハ
 いろづまや座ザ禪ゼンのシひヒいイとス見えミえス
 いろづまや因インまマいイとス破ヒ伏フ格カク
 いろづまやあアふフないナイりのノをヲ地チにニ置ツけテ

素ソ園エン 日ヒ轉テン 拍ハク之シ 煉レン午ヌ 加カ賀カ 一ヒト 倍ツヨク濃ノ上ウヘ 雨アメ 石イシ 多オホク 破ヒ 言コト 奇オドロク 也ナリ 一ヒト 承ウケ 黄ワウ 史シ

熱アツ閃ハや豆マメはハくクとスとスり
 いろづまやマのノくクとスとスりゴ旋マ目メはハらハ
 いなイなナはハまマやヤ依ヨいイふフにニやヤあアはハ
 熱アツ閃ハや小コ路ロのノ形カタにニおオとトとスりク

初ハツ暴ボウ風フウ はハつツちチ
 角ツノ觥コウくクとスとスりゴとスとスりゴとスとスりゴ
 砂スナ楡ユのノ事コトにニむムくク此コノおオもモやヤ神カミ暴ボウ風フウ

凉スズシ依ヨ 芭ハ蕉セウ 上ウヘもモおオ梅ウメ山ヤマ 青アヲ 藍アイ 梅ウメ 路チ 百ヒャク 夫フ 芭ハ 蕉セウ

煉風レンフウ

あうくく日ハつ小くも海のは
 海はや静翁をぬみをはく
 故のには列等く春あは海まは
 村ヒラフギに折目のつくやのさはうぜ
 毛栗イガクリのほりゆりやあは海ま歩
 葛の葉はくくを来はや海のは
 海はやまハ冷まき馬 ち 蟹
 海はやまきびの敷まあハ海
 相の葉をまハ月けく海のは
 海はやまき下けくまはと
 海はやまぬ色蕉もくまハ

芭蕉
 涼帯
 全
 全
 六柿
 故周
 希因
 等白
 如丹
 生丁
 斗克

西の海馬スミトクシ座やあ歳ま可歩
 以折クモノス小く野るに教へ海のは
 秘林網クモノスにむまびわおかへ海まは

健水
 文星
 武陽西
 夏水

角 瓶

皆毒のあ海ホ名瘧ハ見ハ角ス瓶ヒ人
 毛まひりり瓶にもまへまをつ
 出はまびに負くまへ角カカ
 帯にまき野菊のまハ角瓶うま
 長角カや月も偏う海西のか
 人あは中を起く海角カう那

涼帯
 扇計
 左明
 吐雲
 玄芝
 眼石

古今片歌明集卷之三

南北の人ハちいさき角カハ 爲谷

秋鷹 あきの

鷺 ヤドリ をやをせんく 鷺はく水水

壬辰 千那

秋螢 あきの

懐糸につけく減ゆく不^レ惜々者
低く飛ぶ草や因縁重くく

辛酉 鳳毛
五仙

蛛蝶 あきの

蝶くや今産海、草のい後 東奴

秋蚊 あきの

酒の蚊は柱まづに 管 茗 中
酒の蚊や麻にも中く身へ来ぬ

去秋 宣法
雨石

茅蠅 あきの

日くくや持て置ても草水の日紙
ひくくやまゝ人の要瓜くく
茅畑や松づくに 徒 徒
龜くくや西へ伽藍の光侍時
ひくくや蟹く寺ハ読もす

丹波 貝系
涼備
艾梅
杉路
涼宇

古今片歌明集卷之三

十二

日くくくやりの志すひれ一里塚
ひくらーや遠きさの侍夷の歌
比久能くや元は白濁のせす侍夷
むく死ーや元はそす昏結

乙 歌
五 衰

蜻蛉記

つるまに一時やまむ中むが
遠山や情た幸ゆさつひー一歌
情たやふぬかりにほれま
岸く東侍水に似馳らんぼく
準繩を見そして居侍情たか

全 梅 強
好く侍
底 通
李 四
凍 絨

情たや花をふ概に棲少
らんらんや志すい小侍の破さ海に
道のまにまららん小侍情た
筋筋の間をたらく中むがく神
情たやのしもせぬねを乾く居侍
中くか尻どまて居侍むほくか
橋さの縁に日のまく情たくか
情たは徒くり侍や後ーあ
眺侍の紙楯に書く情たくか
むまびぬれまらんかひく情た
おのが月にあおあひくらんが

全 橋 長
大 小 代
三 橋
お 亥
斗 分
一 承
歌 丈
百 弁
眺 乙
流 石

古今片歌明題集卷之三

十一

向^カ咄^カにひより又つぎくらん^ガが^カか
 障^カ障^カのおろし^ハてゆくや^ハ杖^{ツル}棒^{ツル}、^{上毛屋園} 辻^ツ生^シ
 進^シひ子の^シ段^シいひ^シふ^シ事^シ居^シ轉^シた^シる^シを
 茶^チ州^州へ^ヘ藝^ガ肆^ガく^ク每^ニふ^ニむ^ニが^ガト
 兔^ウ洲^洲

阜^フ蝨^シい^イか
 縦^{タテ}横^{ヨコ}にいそぐま^マし^シく^クい^イる^ルご^ゴう^ウな
 始^ハ・^ハ舟^{フネ}く^ク園^{エン}龜^{カメ}ぶ^ブえ^エ敷^シいな^ナご^ゴう^ウな
 う^ウま^マづ^ヅいて^テ蟻^{アリ}の^ノ起^キあ^アが^ガ居^ル阜^フ蝨^シ小^コ
 洞^{ドウ}居^ル 一^一湖^コ 籠^{カゴ}飛^{トビ}

蟋蟀 ^シり^リを^ヲ

さ^サら^ラり^リと^ト空^{カラ}に^ニも^モ啼^ナび^ビさ^サり^リく^クも
 舟^{フネ}偏^{ヘン}も^モ物^{モノ}入^イり^リく^クつ^ツり^リて^テさ^サり^リく^クも
 羨^{セン}も^モ舟^{フネ}子^コへ^ヘあ^アら^ラり^リさ^サり^リく^クも
 羨^{セン}い^イま^マち^チび^ビや^ヤつ^ツき^キく^ク障^障障^障
 に^ニい^イま^マも^モあ^アら^ラり^リて^テ障^障障^障障^障
 者^{シヤ}い^イま^マの^ノさ^サら^ラり^リく^クも^モ障^障障^障障^障
 又^{マタ}に^ニい^イま^マも^モあ^アら^ラり^リく^クも^モ
 茶^チ州^州も^モし^シや^ヤ翠^{ソウ}の^ノさ^サら^ラり^リく^クも^モ
 屏^{アケ}風^{フウ}に^ニ目^メの^ノあ^アら^ラり^リく^クも^モ
 あ^アら^ラり^リく^クも^モ障^障障^障障^障障^障
 押^{オシ}お^オり^リく^クも^モ障^障障^障障^障障^障

文^フ州^州

希^キ因^因

去^ク路^路

山^{ヤマ}城^{シロ}松^{マツ}花^{ハナ}堂^{ドウ}

凉^{レイ}袋^{テイ}

全^{ゼン}

和^ワ水^{スイ}

青^{セイ}蓋^{ガイ}

一^{イチ}原^{ゲン}

全^{ゼン}

杉^{スギ}町^{チヨウ}

鶴のさざに何よりやまをくも
雄小偏やたぐえくあましくは
庭うつゆの下に物あまきりくも
糸をひけ糸あまきりくも
宵園を起し出にりりあましくも
立向に暮の志づくや隠障
松く見侍松法中やまきりくも

古村器
上毛床
雨竹
素儀
太茂
下出
綾女
同
旭路
素輪

紡績娘 まつ

まつむしやいさかひてもまのあ
ゆいむしやあのか頂のねまむし

まに
は
州
坡

金鐘兒 むい

もむしや清波のくへ清いゆく

琴詩

父都和年之 漢名未詳

ひよりしてやふけんかくりて

再機

獨角仙 むか

系法がらやまづしやかぬと生

東起

天牛 あみほ

友柳 髪さりむしの 徒く居侍 木因

奥 むー

手賣や町を三アアけく看に重 貞至

上毛古海 戸外

牽牛花 があさ

あけくかや 大エの 碓氷 希因

あさくかや ぬるに 秋の 全

あさくかや おのが 蔓 系因

あさくかや 花の 花 全

あけくかや 花や 本位の 全

あけくかや 花に 花 一紅

あけくかや 花に 花 有蒸

あけくかや 花に 花 涼備

あけくかや 花に 花 全

あけくかや 花に 花 兎士

あけくかや 花に 花 耕居

あけくかや 花に 花 可樂

あけくかや 花に 花 一蔵

あけくかや 花に 花 心秀

あけくかや 花に 花 深魚

敗醬 をこか

孫人にまふさくほやをみまへー
 こふくハ先へまはほやをこくー
 以くへんのおかーをこくー
 赤色に帯やかまけくをみまへー
 白く笑りぬ花やをみまへー
 紅伊のあけめくをこなへー
 素山子くくいとぬ花を敗 ガサカリ
 刈子姑 ガサカリ 花をこかへー
 穂く ツク の怪 ツク や押くをこかへー
加賀

ろくくく ツク の家 ツク 氣 ツク やをこかへー
 あちく ツク びく ツク 病 ツク もつ ツク い ツク を ツク を ツク こ ツク な ツク へー
 以 ツク た ツク く ツク 草 ツク の ツク 根 ツク 女 ツク 子 ツク 平 ツク 英 ツク 素 ツク 字 ツク 子 ツク
 萩 ツク 枝 ツク 姑 ツク 十 ツク 二 ツク ひ ツク く ツク 子 ツク を ツク 英 ツク 如 ツク 葉 ツク 子 ツク
 三 ツク 子 ツク の ツク 赤 ツク 花 ツク を ツク 見 ツク ぬ ツク へー
 祇 棠
 涼 洲
 以 秀
 西 羊
 麥 林

白花敗醬 をこか

赤 ツク 塚 ツク に ツク こ ツク が ツク く ツク 事 ツク 々 ツク を ツク と ツク こ ツク へー
 お ツク 不 ツク こ ツク ち ツク ち ツク の ツク 苗 ツク 字 ツク 々 ツク 不 ツク 花 ツク 敗 ツク 醬 ツク
 山 ツク の ツク 名 ツク を ツク あ ツク ぶ ツク け ツク け ツク け ツク を ツク と ツク こ ツク へー
 を ツク と ツク こ ツク へー ツク 花 ツク 野 ツク い ツク ひ ツク り ツク る ツク 葉 ツク 子 ツク 子 ツク
加賀

猪 白
 杜 門
 祇 十
 仙 竹

蘭 うぶぢは
子ハいぬ 優ユキく中にぬらぐは 東奴

蕙蘭 らん

蕙アハのちく尻のまゝや紫花紫花 凉涼依依
紫花紫花や海海さく梅梅るるへ優優也 琴時

胡枝花 こはぎの

胡コ枝ギ花ハ こはぎの
小刀コの子コ刈コもコ刈コ了コ枝コのコちコ 川川夕夕
上毛板鼻
如如巢巢

秋海棠 アキカイトウ

留アキ海棠アキ西アキ瓜アキのアキいろアキにアキ敷アキおアキろアキ了アキ
侘アキ海棠アキをアキハアキ咲アキぐアキはアキくアキもアキなアキしアキ
芭蕉
ほはぬ山
法法

旋覆花 センゴク

をセンくセン海センまセンやセン興センくセンやセンめセンにセン思センひセンりセン色セン
満センくセン金センやセン糸セン練セン子センをセンひセンさセンちセンりセン
交交風風
百百尋尋

桔梗 キキョウ

夕キキ即キキやキキ桔キキ梗キキの中キキへキキ清キキくキキくキキゆキキくキキ
ほはぬ山
如如芥芥

五六日 ぬくし けり ちさく やう ちさ
刈草子に 段の出事 居格 杖 小 似 竹

剪秋羅 せんしゅら

大は 徒に おか い 也 し 勢 路 庭 子

馬唐 ばたう

を 押 一 も り り 草 花 の 花 中
も ま ひ く さ 見 子 の け に 入 居 芭 蕉 一 原

女青 にょせい

女 青 にょせい

る ぐ ぐ 一 こ 仕 原 水 々 数 や 委 い と ち ぬ
疾 の る ん 野 子 の 柿 や 委 い と は 委 東 起 依 雨

野菊 のきく

小 じ ゃ じ に 雜 思 細 々 考 々 野 菊 々 委
を 一 ち の ね つ 々 々 々 々 々 々 阿 僧
草 雜 々 々 々 々 々 々 琴 詩
谷 々 々 々 々 々 々 十 字

鬱金花 うつぎんか

鬱 金 花 院

古今詩歌題集卷之三

雀 麥 かや
実うたう刈くもあ〜び雀麦ハ

江行言野
本含楚
仙

芭蕉 を

寒山に霞い〜見え侍む歩寂
放春の欠い〜くむせをう那
いろ〜に日のこ〜芭蕉小
あ〜〜は刻〜むれを〜那
切〜の〜もた〜ぬ世〜

仙臺 桐原
江戸 白英
上毛前橋 來川
全 吹雁
枕岸

菘 を

沼水のお〜も菘は材言〜

長徳
如行

稻花 い糸の
を

竹〜退く花の序や稲も花

殊午

早稻 を

涼〜さや子稲の〜花を
早稲の〜や蟹磯〜け磯花を

麥林
支考

殊紫茄 あき子
を

古今詩歌題集卷之三

三十

日く終にけさぞくも終ぞ終は終
かに名のつけやうきく終なまひ

位松
可津羅

超口

西瓜 瓜くわ瓜くわ

つめア〜ハ〜終のまゆぬ西瓜瓜
宛將橋にそそりるるるる瓜瓜

珈凉
兔士

冬瓜 瓜くわ瓜くわ

あ瓜瓜二百十日もおと終う瓜
かもアアやいつ〜瓜瓜瓜瓜瓜
あ瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜

維鳩
禹貢
烏林

うも〜アア 圃ほらの形に終は終く

江水羅

壺 蘆 實ゆふが

ゆふが瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜
壺壺壺壺壺壺壺壺壺壺壺壺壺
ゆふが瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜

楚岫
儿山
麥林

絲瓜 瓜くわ瓜くわ

日の終をささる〜入道係瓜瓜
網は目に水も〜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜

東起
田村
笑去

刀豆 よかめ

さくさくやひさしに純に清くみち

下段 孤帆

燈籠 ぶな

あつさや暖はぬのこ小つは
燈籠や音をきく火とり
ほはあやもあやを提てあは

一音 阿坡 市雪

蕃椒 らうが

目に海をきくはさしこくか
垣根にもくくをさしこくか

女 紫紅 大福 襪松

一ひつ文ゆく海やさしこく
硝子へ入ても見ゆやさしこく

貞丘 度江

桃實 のちい

神実の桃や三葉に見え居は

下段 谷水

毛桃 けも

香別も知く毛桃の老にりま

曾呂利

一葉 ひと

あかくと地にそくすくを一葉小

京 江棧

古今片言明題集卷之三

鶴の冠毛をかき添一葉ウ柳 白枝
 それだけの月を落し一葉ウ 其由
 映陸は百ハすくひとたウ 崇江
 煥養は一ハの満くハ一葉ウ 大和柳本
 榴櫛の飛は思く結一葉ウ 双飛
 打蕙工に席安せく一葉ウ 京也
 敬るぬ人の下葉へひとたウ 烏文
 上弦の中ハ見くく葉とは一ウ 仙衣
 表角カへ行目のやえは一葉ウ 桂露

敬柳 ちるや ちるや

船底に大工のきや葉を成 一葉
 うぐいをも展ぬくちるや葉 柳 里郷
 ひうぐいのゆきやそのちるや 柳 看英
 上見杯を添ハちるや葉 柳 千箱
 船底は美く枝は戸を成 柳 深博
 船底の初はゆきや葉を成 柳 白羽

木槿 げんく

登は葉を成くちるや葉 柳 兎士
 枝折れは皮の敷さぬむくちるや 柳 病文
 四子尺くちるや葉を成 柳 涼備

古今片言明題集卷之三

七三

極ハツ留サク々夕日に見えぬむくげハ
目メの待マ守シこけくむくぢハ
と捷徑及ツくむをぬむくげハ

其葉

柳四
雲和

二百十日 にひやく
とをり

柳ハく二百十日を定めりハ
かりぬや二百十日の口をさみ

涼素
去路

ハハツ朔

ハハツ朔ハツ踊ハツくをかりハツ
ハハツ朔ハツ養ハツ理ハツにハツ影ハツ出ハツは梅ハツの花

麥林
超波

ハハツ朔ハツの待ハツを向ハツたハツ

依中記
左言

焮シヤク釋テン奠

吹ハツくもハツ路ハツやハツ夜ハツのおハツくハツ

其ハツ來ハツ也

焮ヒ彼ガン岸

あハツさハツがハツ海ハツさハツうハツ座ハツをハツたハツくハツ波ハツ者ハツ
新ハツ米ハツはハツ海ハツさハツにハツとハツさハツくハツ波ハツ者ハツ

汶上
庭世

摺扇置 あかさ
た

そハツくハツくハツのハツくハツいハツまハツふハツ扇ハツのハツ那

入ハツ楚

雁ひとの更定めて屋く庵、那
とて驚く屋てもあぬあふさか
一歳 子時原

三日月 つま

さびしはは門に入りて三日は月
ちのあけは枝まつふふや三日の月
是りは見えはらし三日は月
見届ける本橋に入敷や三日は月
はど先くは源兼ハ言三日は月
本のるくは兔の身やみりはつま
去路 其梅 洗言 一歳 希因 姜林

司召 つま
みの座ハ橋ははかさ先く
此君

月 つま

あう水く粗の歯か一客もは月
月子一楮ハ雨を拵か
あを吹け月のはくはあく山
其角 芭蕉 紹巴

名月

庭の家をふ照やしりふの月
名月や文く舞はの若ひさ
全 麥林

名月や明ほいすに行あゝる
 名月の舟や阿そこもあゝる
 名月や伊さく見くそそ
 博覧のまぐにあそぶやう
 ありそあぶなま橋やうの月
 名月や恵くそ星ハ物見く
 名月や人に麻くそ鶏を
 作向に麻くそ不あもそ
 名月や何を為そ明てゆく
 名月や何に何そぬも渾一
 麻俗にこそあはあはる

全 希 全 全 全 全 全 全 全 全
 全 梅 淡 全 全 全 全 全 全
 全 路 々

とを見ぬそは悟さやうの月
 二いとハ戸を致せぬ月見
 月見むと名けそ一海酒は
 五月雨に能く活そ飛てり
 名月やこよひハ夜の言り
 名月や名交おまいそ
 新し記はも溢るり
 名月や只の字ハ浩海のも
 名月や海潮ハおのが潮く
 名月や扇に色そ麻も出

温 故 祿 懸 平 砂 紀 造 龍 成 在 精 再 賀 大 至 舊 室 一 庫 西 里

名月や硯をうめ侍樓ハあはれ
名月や雪おろく雪く街垣守
早ひよの火徳に持く月見小
名月や起湯タツナミくハ穴のくち
名月や櫓に船のふ侍まじ
船フネのやうになすく月見小
名月や雨アメを解トクけ流ナガす海
名月や虚ソラを恨ニヒにミくりき
あさか石イシにヒくミくミくミのつさ
名月や濁ナメきミくミのハミとミア
南ミナミ山の櫓タテくミくミのつさ

言蓋
伊勢四日市
宇瀬
日
甲斐
泉布
萩丈
伊勢津
二日坊
佐佐木村田
鶴山
白杖
雲裡
文庫

名月や雪おろく雪く街垣守
早ひよの火徳に持く月見小
名月や起湯タツナミくハ穴のくち
名月や櫓に船のふ侍まじ
船フネのやうになすく月見小
名月や雨アメを解トクけ流ナガす海
名月や虚ソラを恨ニヒにミくりき
あさか石イシにヒくミくミのつさ
名月や濁ナメきミくミのハミとミア
南ミナミ山の櫓タテくミくミのつさ

乙 珠
加 涼
江 丈
六 柿
菱 糸
上ウヘのミのミ
梅 沢
下 登
おお持持小小田田系系
芭 蕉

をりく人を体の侍月見は 全

十五夜雨 おろこや
のあめ

名月や破る侍らに春花下
雨雲小夜近昨やりのついで
凉体 焚燂

放生會 ハウシヤウエ

好桃雀や燕まてつちく放生し
人列く桑山子へりや放生會
舎懸く藤に麻屋思や放生會
戸袋へこまひはもさうはくしやくる
去 洗 凉 麥
去 雪 体 林

駒牽并駒迎 こまひき
こまむか

むさしやう能くそくさうりよの駒
駒牽やまは紫馬に牽つて
滑ひくと袂文自慢やうらなま
とつけも侍野といはくしは駒
駒ひきや牛を逐ぬく駒
駒牽やまを逐ぬく駒
弱きか人むくしおまむく
駒むくははかけも年
くくは板東あやこはむく
凉伊丹 江 白 複 水 凉 武
房 川 陀 雪 体 子 彦 彦

駒^{ウマ}まやそ〜月も紀^イゆく
すの^{スノ}折^マ〜糸^{イト}糸^{イト}見^ミ侍^シや駒^{ウマ}途^チへ
驛^{ヤシロ}に月^{ツキ}ち〜と^ト木^キはむ〜
櫻^{ウツギ}小^コ磯^{イソ}上の^ノ浪^{ナミ}や駒^{ウマ}む〜へ

禹貢
百夫
紫藤
許六

初潮はつうしほ

神^{カミ}海^{ウミ}や暮^クさぬ水^{ミヅ}もつ水^{ミヅ}ゆく
神^{カミ}海^{ウミ}や細^{ホソ}い糸^{イト}に帆^ホけ毎^{ツネニ}
と川^{カハ}志^シ不^フや鶴^{ツル}の尾^ビはぬまて来^キぬ

江戸古由
嵐蘭
藍水

放水はつみづ

穂^ホ家^カの海^{ウミ}ま浪^{ナミ}消^{シユ}〜り板^{イタ}ま
と〜り〜り〜に船^{フネ}るや放^{ハツ}水^{ミヅ}
船^{フネ}越^コ〜海^{ウミ}早^{ハヤ}ハ見^ミえ〜り板^{イタ}〜水^{ミヅ}
清^{スガ}子^コ洗^シ〜雨^{アメ}を〜り板^{イタ}〜り板^{イタ}〜水^{ミヅ}
る見^ミ〜り板^{イタ}〜り板^{イタ}〜り板^{イタ}〜水^{ミヅ}
お〜水^{ミヅ}極^{タタ}まはた〜り板^{イタ}〜り板^{イタ}〜水^{ミヅ}

凉佈
雲郎
破了
六柿
曲阿
可昇

案山子あんざんこ

奥^{おく}州^{しゅう}の笠^{かさ}〜り板^{イタ}〜り板^{イタ}〜水^{ミヅ}
冷^{ヒヤ}〜り板^{イタ}〜り板^{イタ}〜水^{ミヅ}
さ〜り板^{イタ}〜り板^{イタ}〜水^{ミヅ}

加賀金沢
三十六
史丸
祇亟

結ヒ子シとシおシふシくシ依シ依シ素シ山シ子シハ
零イモ餅コ子コのコまコひコくコまコくコ素コ山コ子コハ
よコまコつコぬコ有コ情コの中コにコかコーコ々コ那
吹コさコびコにコ綿コくコくコまコのコかコーコ々コ那
今コくコとコ櫻コのコたコぬコ葉コ山コ子コハ
老千海ハ老ハ婆ハはハれハこハまハくハまハかハーハハ
物ハいハらハへハくハくハまハもハまハゆハくハかハーハ々ハ那
あハーハらハへハくハくハまハのハ疾ハ侍ハ素ハ山ハ子ハハ
百ハとハ勢ハのハ男ハとハ女ハくハかハーハ々ハ那
ぬハくハをハ鐘ハくハつハくハろハみハくハーハハ
了ハ医ハ者ハのハ車ハ一ハてハ毎ハ侍ハ素ハ山ハ子ハハ

百道
青藍
凉備
全
鬼士
全
麥林
凉洲
芳斗
二毛
左靜

綿ハ少ハ子ハにハ糸ハねハくハくハくハ侍ハ素ハ山ハ子ハハ
城ハ跡ハのハ道ハよハハハ又ハくハくハかハーハ々ハ那
長ハ目ハ遠ハ目ハ並ハをハ若ハせハくハもハ素ハ山ハ子ハハ
舞イナ閃ツクのハぬハまハをハりハてハもハ素ハ山ハ子ハハ
人ハ里ハをハをハくハ散ハへハ侍ハ下ハくハくハ系ハ那
朝ハ旁ハのハ産ハまハをハくハりハくハーハ々ハ那
遠ハ目ハにハハハ落ハ蟬ハをハ拾ハふハ素ハ山ハ子ハハ
弓ハ杖ハにハ坐ハくハくハまハゆハくハ素ハ山ハ子ハハ
身ハのハたハぬハ服レ半ゴト又ハてハ居ハるハかハーハハ
静ハはハ菓ハいハまハぬハまハがハーハ々ハ那

射堂
維鳩
江蘆英
雲郎
全
洗雪
同
松前
有隣
雁志

那留古

田舎に人の屑をー那留古也
川ひよりのあはれをふるりこな
横船史の老をやーるなれこり那
本後の報しはしめや那留古は
さひーはあふてもあふぬを侍こり
欠ーくおまふハキー一奈流古は

凉 可 梅 千 王
体 枝 人 婦 才
撰津西宮
娘の侍

野和幾

解魔法師の忍ろーる海野こき
履まへ馬はまが那野こき

双 凉
飛 体

鳴るに撞本のうごく法とあは
割札を先起ーし海野こき
鶴鶴の起るころが野こき
糸唐ハ翼をうげー野こき
水多の深むぐ互に野こき
横槍の海見ー帰海野こき
恙々々の一かにさつー野こき
やまぬーハ月の出て見海野こき
新洲のおまろー野野和糸
捕花へまのまは届くのり
映鏡にうーをゆき出を野こき

全 鬼 去 鬼 長 深 及 萩 凉 映 末
士 路 洲 眉 株 上 疎 字 棠 了

人あり八田圃に満くつ野りきう那

江 案山子

階階の投出さくつ侍野りきう那

堵 充

鶏冠の砂あびて居侍野りきう那

甘 古

涼まじりつて雲おろへも野りきう那

琳 李

蒲葦若社一回にさく野りきう那

花 明

一門家の脊中をつむむ汝りきう那

丁 由

交通帯へ茶のをさす侍野りきう那

乙 疎

茶の出うけく茶野りきう那

古 由

命入て、侍も又くぬ野りきう那

全

株毎を一日はく野りきう那

一 承

常葉木の秋くつ野りきう那

一 承

笠紐の志まじりつ侍野りきう那

全

編笠を帯へ折るも野りきう那

涼 戸

山鶏の尾に結く紐が汝りきう那

越 霞舟

細撒く家を押へ侍野りきう那

涼 楓

新茶は種蒔く屋くのこ茶う那

破 了

茶とに吸くつりらも野りきう那

冠 子

田も圃や皆冷くつ侍野りきう那

艾 梅

一時に蒲昭野のぬけ野りきう那

蓋

剛力の杖一疾く侍野りきう那

可 也

人ありぬ維の中さく野りきう那

雨 笠

あの柿はやひつり飲くそのこ能く

雨 笠

古今新明題集卷之三

振綱女の習ぐばあふ野にあうち
是飾一風襟ものこあう那
今射はと素山子の又く海野にさか
鷲冠の根をくめりけね野にさか

洗言
上を相せ
一計
乙路
成石

如鳥化為田鼠 てんづらけして
でんそくかほ

粟此穂やけく葉も船とあがア
涼備

和多理登里

兼をひひく海くやとくりも
他の多れえへくくくひくさうか
支考
麥林

元山をおのか門やとくりも
は状ハ船にいりせく和多理中里
葉に然れどもくくくくくくく
練鵲ハ後の病りちやけくくくく
鶴や橋くくくく和多理登里
雲くくく雨くくく和多理中里
春藍
百川
暗帆
凉備
菴人
玄路

雁かマ

けバ海の異ささきばや雁志あ
神ノや山へ砂水も野にたくも
あさあに赤はあがえむアのあ
湖十
素園
一鼠

何喰りの表して糸舟や暮の厂
夕へまゝ後さざりやうはくま
うはるる又持て國の桑ハかに
神ノヤ衣身はものまろもくへ
唇啼く禱に油をたづひま
枝懐ひとくまふてをしノあり
神ノヤふいハきも後ノ先
於船の着にも貸さびくはか

柳君
凉帝
全
附鳳
残馬
麥林
瀾城
許石

胡提雀 ガヤマ

やはぐりや脊中又て糸舟水まると

吟風

お桃菴のくぐりぬけううに怖まらふ

兎士

桑鳥 まめは

冷ひ飽く居侍も又えまほめよハ

鬼塚

新木鳥 てらつひ

画圖へまゝ祈のまやてつき
啄本多や待見おがえく遊くへは

笑林
鶯象

鶉 らづ

ニまろとくハ怒さぬうづらみ

笑林

碓氷層の振金を買ひて鶴を
 同着れ中へはし出れうづ
 一たあごたまひとる家鶴う那
 美のまぬまに後しうづうか
 角飲人をあしうやほうづ
 おさふてはうらあけぬうづ
 沼の度もや短しと啼うづ
 氣みじうに衣をぬうづ
 雁の家をぬけうづ

大阜
 万寿
 吟風
 麦赤
 鬼士
 伊山
 巴山
 下路小又川
 巴山

鴨もむ

月を獲ふく椀杖しあまをむ
 早いしゆ杉のまづ水や貯るも

鷓もむ

山中にまの田も何やまむのまゑ
 つくくくは翁を杖し小田もむ

帰燕つう侍

燕戸かへまうしを獲てや
 沼にま尾にまゆひつむ先
 燕戸のあちうお

源信
 丹後宮津
 踏鳥洲
 中橋

燕アサオキや 拾ヒキもさうさうぬかへりや
 風フウ起オキも来キはかへつたためか
 涙ナミ花ハナをりてりてはは燕アサオキうさ

起鳳
 楚調
 江戸
 相蝶

鹿 志々

若ニヤウジのち 紙シ拾ヒキ家カとバ月ツキも入イ取
 麻アサぬ程ハジメに寝ヨギ衣イ出デして何ナニも若ニヤウジのち
 二人ニヒト痛イタシく若ニヤウジも出デるり麻アサはあ
 官カン柱チウ若ニヤウジくハ妙ミョウ一イツ志シ々ツツは志シ
 沼ヌマ伊イや里リぬあへ志シ々ツツ志シ
 麻アサも若ニヤウジすく人もくあもさうさう

休ヒユ大ダイ
 凉リョウ佛ハツ
 希キ因イン
 全ゼン
 麥マク林リン
 魚イサ

飛タケ燕アサオキハ身ミのかへ落オチるり麻アサのち
 少シりさう若ニヤウジにさうさう若ニヤウジも角カク
 目メは若ニヤウジもさうさう若ニヤウジのち麻アサのち
 常ジョウ流リウの浦ウラえほも若ニヤウジもさうさう
 羽ハ之ノ細ホソひ後ノチの奥ウチにさうさう
 渡ワタ水ミヅも若ニヤウジもさうさう若ニヤウジのち
 居イるさう若ニヤウジもさうさう若ニヤウジのち
 猿サル人の二ニ首カビハ若ニヤウジもさうさう若ニヤウジのち
 麻アサぬ人ヒトは若ニヤウジもさうさう若ニヤウジのち

素ソ因イン
 野ノ的テキ
 白ハク枝シ
 珈カ凉リョウ
 一イツ麻マ
 貞テイ至シ
 西セイ羊ヤウ
 楚ショ岫キウ
 多タ少ショ
 吾ゴ戸コ

冥々待たるゝ八尋の麻衣の衣
まよ色の故揚さへりて衣の衣
喫と折侍儀の衣領や麻衣の衣
客の衣の衣懸おりり麻衣の衣
間くは衣の吊桶や麻の聲
角の代衣の衣の衣をむし麻衣の衣
三日月を又と侍る麻の衣の衣
麻衣の衣の衣の衣の衣の衣
麻衣の衣の衣の衣の衣の衣
美に折侍朝結は枝や美衣の衣

上毛安中 蕪溪
祇翠
洗雪
茶來
東起
度江
伊勢大 麥推
可由
麥舟
汶上

鱸

茅の葉に衣をくはえ侍る衣の衣
八月の漁師の衣の衣の衣の衣

維鳩
伊勢大 二

鱒魚

古刀魚や網を破侍る衣の衣

上毛小泉 石城

鮎

鮎釣や角を破侍る衣の衣

支考

海鰻

古今行旅明題集卷之三

批

網に又といふや常く日中の敷
涼休
吹より風雲にあり海 鯉 獲
破了
拾はせぬ細の房 獲やいふいふ
上毛お格
物 獲

過臘魚 さけ
丹後漆
末 産
おとろ魚や弓くむふたでさくん
生意

老溪鯉魚 あさひ
橘 産 寒瓜
おとろ魚のあさひさびては鯉はさく
カサキ
は鯉さくちやさき産のをもとをさくさく

杜父魚鳴 かた
汶上
落はるは鯉にさかかーのさ

下藻 やくだり
常陸龍寺
夕月も及くさすはやくさる藻
儿 雲

鰻 鱺 築 やうな
ねお人村
悠休と落くは休しうさやな
投 厄

花野 のさ
岸 虎
角おく牛をさすを花野さ

一音
 魚遠近江日野流之
 涼宇
 涼休
 文東
 一鼠下毛足利
 烏朝
 曾平
 何因
 門瑟

麦舟
 青藍
 全

翠蛾眉 つぎ
丹後金谷 青丘

鳳仙花
 下毛足利 梅種

紫苑レ

けほを造りけし居侍も花うか
 かい袖を捲く見せしは花うか
 縁の出は階杖の床や花うか
 是弱を捲きしは花うか
 双生山まのさあふ花うか
 約年のささく花うか
 帆へさく伊の船ゆくをささく

琴詩
 許六
 加賀金沢
 深更
 王才
 見風
 祇徳
 未了

蘆花 あしの
 葦葉のささくや花うか
 湖 あしの
 紙 あしの
 裳 あしの

其門下
 湖
 宙
 紙
 裳

蓼花 たでの
 つくと妙侍暑さや花うか
 襟も蓼の冷さや花うか

百川
 士鳳

藍花 あいの
 おのが葉に麻斑ゆひ了中藍の花
 負船へおほをうさも花うか

信濃善光寺
 路友
 東起

牡丹分根 あいの
 ちびる心秋てささく牡丹小

江戸
 柳
 鼓

古今戸部明是集卷之三

蓮 實 脱 はすの
ことぶ

蓮のうまい梅にもるしむを、飛にりりア
蓮は実や、飛、そこのうろりしをん
蓮のうまい梅にやを、飛、そこのうろりしをん
蓮は実や、飛、そこのうろりしをん

蕙本

経旭

伊勢山田
素梅

素梅

零 餘子 こぬり

梅のくむぐあう、梅ぬりぞ

浪家
有 有

芋 いも

目をいりて海新 あら 概 こ あや芋 芋 圃 圃 京 蝶 夢

草 綿 採 とと

おにーくもひぬは海や海 圃
くく採や袖小あまうく脊中へも
大和
涼 備
東 梅

午 夢 挽 こかく
ひき

泥足の毛もむくく午夢挽 東 起

夢 臺 子 蔀 よこ
はら

るるのうまい梅に夕日の海梅ぞ 破 了

木賊川 りくさ

百姓のふくもろくじ本城川
 爪はるたーなむ里やとくさ川
 海の日を休み城をややくさ川
 海のひハ産カトしひのく本城川
 海りくさ齒のくくまやとくさ川

雙飛
 涼洲
 維鳩
 青藍
 西羊

茜草あう極カ

白アキカ曉カの空又くやうり茜草極

去カ八幡山
 橘子

藥堀 くさ

いんろくじ席のま水やくま極
 草花に消くく根も何で茶ほり
 馬医者に灸の痕イくくも極
 比ヒ首シの灸イ度ドも落く茶ほり
 ほく不フの草にもさめてくも極

汶上
 千波チハ
 馬腹ウマハラ
 時風トキカゼ
 青藍

苦參挽 くさ

後持のさくひあふり苦參挽

維鳩

茯苓ふく割カ

古今戸歌明題集卷之三

四十三

茯苓や劔をえつゝるの毒

紫英

草獵 たけ

上毛館林 耳風

草獵やもるやをさハ持て居

草獵や糸は先を脱おかりし

草獵や秋の子をむふに毛

草獵やあさごうにこやこく

草獵や麻ハ人えう 踏まけび

草獵や酒にもささ不焚こし海

草獵や月見海まぐし山先くマ

草獵や橋の朽もりかへマ

如榊 上毛前橋 管吹 下毛館子 千世 亀文 金谷 其角

栝樓 からき 魚柿 ツルカキ けしきまぎしからも瓜

上毛太田 烏水

王瓜 たま

たまつさやその蔓ハ皆ちりし

破了

葡萄 ぶどう

あひ子に流乳のねさ葡萄小
あはくを落して見せ海葡萄小

李北 茂殊

白英 いよこび

飛花にハ陸ぬひよとりと戸カ

汶上

艶 ぶく

の山をの相あつりまゝぬくべ
去にう帰るまはるは一の艶カ
沼原のまへをう帰ぬくぬか
ううくとすゝたのあ艶艶のぬ
別たて尾街新のぞくふくべカ
原水まへうまるといほ艶カぬ
うごうして艶のまつむぬくべカ

白枝
兎士
木路
蓼太
晴帆
可卿
洗雪

まけ花々 蕪にまがふふくへカ

西羊

木芙蓉 モクフヨウ

うつくしい糸に艶う帰まきうか
相は糸の一枚まがぬぬうう那

嶺岐金毘羅
冬扇
秋父小鹿野
百梅

木犀 モクセイ

木犀や沼もくく見はるいあま

任徳小法
瑞芝

殊出替 あきので

出幣や先のあきハあまのいども

涼併

古今片歌明題集卷之三

四十五

九日 菊

りよに來く菊つくらよと思ひり
 秋ナはあらしの残しりよふさ菊
 飛子トうらむの事さうりよふの菊
 幾く花をいふの持くさふはさく
 月の河はく人に負はやヤ菊
 下戸の月へふえくハ見えぬりよふ菊
 うさひそに物持捨りせりよふさ菊
 はつかさをりよふさうへせ菊
 本時ヒくハ酒にぬゆやさくは花
 江 雁 涼 涼 素 梅 二
 心 志 宇 備 園 荷 毛 水
 深 紙 更

菊の實も鼻を穿くりりよふさく
 常ナくさひさの酒やりよふの秋く
 菊の思ふはく赤くさくの花
 一人と抱あはうさく菊のさか
 氣のよい花はあけや菊のさか
 鼻にさすさくははや菊のさか
 ハ重さくハ笑うて又さく菊
 杖てし竹のよりさく菊
 是かどのさくせくさくはさか
 葉に虫の禁マさくさくはさか
 情ナしさくさくはさか
 後 双 支 青 双 殊 紫 笑 祇 圭 梅
 川 羽 考 藍 飛 袋 苑 鴉 巫 宇 史

隠れても影ふに疎ぬくを菊つくり
 垣ゆかき室さく入まじむ菊 圃
 若生の隙くとも水さくもろを菊
 季にをぬ沢中の友や菊は花
 たのしむは縁より言しさくはたを
 季ににみ俵くりせくさくはたを

其
 艾
 舟
 以
 秀
 五
 条
 切
 王
 才
 凍
 依
 全

妹離像 あはれの

角スモトリ麟リ人のてりてハ美ふはく奈くね 一 象

野言別 のいこや
はこくは

吹あはく地後もく山や小柴垣
 野言別 丹後まは
東
柏

十三夜 じゅうさんや

柴舟の焚く付賃しを後を月
 下きありぬものを名いぐ十三夜
 後の月野山に結ば駒をく忍
 船江も常しと影や後を月
 不形か種類にのくはや後の月
 唐へ渡は飽のあや後のつき
 船ハにぬ陸へるをし後のつき

舟
 入
 掛
 凍
 依
 全
 言
 舟
 下
 系
 鬼
 田

あいさつの一えおかー後のつら
 炊く見侍あもをー後の月
 於菫の糸を後ー後のつら
 宴も結縵州へハトリビナニ
 結糸虫の家は志まらや後のつら
 文ーー高麗ハマ海ー後のつら
 石山へ海のつらあま後まつら
 水門の鍵ハさびーのちけつら
 衣もせぬ柱のまらや後のほら
 袂まで江中ハあまらけちの月
 あれりどが秋のつらー後のつら

素花 笑林 州羽 風馬 巴人 志 山州 一鼠 霞舟 古硯 瀾城

帯袂を挽くまひやけちるる月
 双飛

寶市たのち

殊冥ふくふあかり月見うさ
 市は月りふハ九合の殊もかー
 殊も子はあほが寝ぞりふまら
 飲不ーく殊を枕や市は月
 兼阿ハ兼海も寝や市は月

芭蕉 涼備 司鱸 柳居 杜菱

長夜さよ

ちさあや 炎尋せんくは
 紡車
 破了

漆^ニ欄^{ラン}のふきをを又てもあはせ
きさあやのゆく右にかこたふ
きさあやの漏^トの微^ホはひしり松

涼^ニ佛^{ブツ}
汶^ン上^{ウエ}
瀾^{ラン}城^{シヤウ}

夜寒よさ

悔^ニをけしそ星^{ホシ}をあきにかに
あさふ乃一日^{イチニチ}夜^ヤあき
欄^{ラン}干^{カン}の人^{ニヒト}を更^シにあき
と山^{ヤマ}の松^{ノマツ}にちうきあき
藤^{フジ}のうつくしうきあき
菜^{ダイ}菘^{ソウ}は肩^{カタ}あきりりあき

去^キ小^コ康^{カウ}野^ノ
砧^{シズメ}上^{ウエ}
涼^ニ佛^{ブツ}
全^{ゼン}全^{ゼン}全^{ゼン}
麥^{マク}水^{スイ}

不^フ菊^{キク}は涼^{リョウ}つとあき
夜^ヤ衣^イ一^{イチ}の杖^{シヤウ}に寒^{サムイ}の入^{ノイ}あき
物^{モノ}を杖^{シヤウ}八^{ハチ}時^ジに言^{イハ}ふあき
か^カ涼^{リョウ}の障^{シヤウ}杖^{シヤウ}あき
冠^{クワン}冠^{クワン}の^ノと氣^キもあき
杖^{シヤウ}のあきを相^{アヒ}むあき
栗^リ焼^{ヤク}杖^{シヤウ}にほすあき
羞^{シウ}に^ニ飛^{トビ}障^{シヤウ}もあき
り^リ尻^{シラ}もあき
返^{ヘン}辞^ジ一^{イチ}の夜^ヤ燭^{シヤク}の
塗^ヌ桶^{ツク}に爪^{ツメ}を言^{イハ}ふあき

可^カ登^{トウ}
冠^{クワン}子^シ
凉^{リョウ}素^ソ
里^リ朝^{チウ}
可^カ由^ユ
帶^{タイ}河^カ
太^{タイ}阜^フ
蝶^{テツ}角^{カク}
柵^{シヤク}門^{モン}
梅^{バイ}圃^ブ
吟^{イン}風^{フウ}

似麻ウツクの齋スリ終ハツためく長ナガさむムう那
 らラびビの少コあへく艘フネは長ナガくク小
 隅クマくへ目メはひヒくク長ナガさむムう那
 也ヤりリびビの袖スエにかく袖スエは長ナガくク那
 懐ハツへヘ心ココロは飛トビこコむ夜ヨさむムう那
 八景ハツは障サマシ子コにニそソうウ小コ長ナガさむムう那
 志シろくロクくク麻マくクたタめてメ長ナガさむムう那
 香カとトへヘくク爰コゝにもニ不フ長ナガのノ長ナガさむムう那
 炭ス室イにニ担タ晴ハ神カミくク長ナガさむムう那
 小コあへてテ見ミくク他ヒのノ秋アキ見ミは長ナガさむムう那

由戸 几山 垂芝 眠石 嘯山 一嵐 可也 洗雪 祇翠 巴夕 西羊

擣衣ウチのノいイぬヌ

泣ナひヒは長ナガさむムう那
 玉タマ音ネ 不フ殘ザン 西セイ羊ヤウ 双スウ飛ヘイ 凉リョウ楓フウ 鬼キ來ライ 鳳ホウ左サ

古今片歌明集卷之三

四十一

寺にるんきのごさひーさ破々那
門あのおあささひーあ破々那
杖杖杖あはせ侍ささめさ
こさあにハをささささ破々那
女房に剥ささささ小長ささめ
毀他は拍子にさささあゆさ
絶頂さささ見て居侍ささめさ
ささささ破々に成侍ささめさ

樹仙
宜考
去路
雨石
希因
車宇
白陀
秀陽

新酒

是あ少保まうまにこへむ新酒小

其角

任者の神もるにあふ新酒小

柳居

魚簾打 あつろ

あさささは麻布も打あつろ小

汶上

露霰 つれゆー

おさささささささささささ
西条圃に粗の奴さささささ
雲の今や宙りさささささ
菊はもさおにつく日やさささ

蘆錐
洗雪
凉傘
希因

雲執 つゆ

志りやほまゝに踏まにをほ

そのまは 兔路

峰越息 のをかこ

一とよと絶頂に湖や急の丁急

汶上

熊館 かくまのに

木に熊の新や栗をゆまこほ

出ま八代 丘鶯

虫擇 らむしえ

物名の袖をむらにして重えり

破了

擇ありに擇あふとと一虫のあ

京 貞室

梅里

爵入大水為蛤 もいめたいをいはい

にしよてよと砂水やむりもむ

涼傘

紅葉鯉 もみぢ

麻糸にともほ夕日やとみぢ解

汶上

地錦 つと

つとせり中四ふむはあし

芭蕉

赤松あかまつのおのがほくくろりつゝのいけ

尾葉人

萬年青 こねも

水みづうけくく朱あかを研と並なじおもとく

雨葉あめかた

維鳩

紅葉 あきば

目め心こころのあそきて出いてもお葉はふか
陰かげ竹たけのえくくハ海うみもみちり
水みづおちくくくくはくお葉はふ
船ふね旁わきのくく吹ふくくをりみちる

希因 凉郁 大阜

みりけに麻あしのよむむどお葉はふ

一嵐 瀾城

洞ほら水みづの蓋ふた深ふかくくもみちり那

麥林

物ものの乾かわは京みやこは晴はくやくもみち

阿坡

者ものかさぬ道をきくくお葉はふ

帛糸

けやくに雨あめの深ふかくくもみちり

白枝

掃はら人の苗こゝろにも深ふかくくもみちり

柳居

洗あら濯そへまくハつくろふもみちり

伊山

多おほハ皆みな深ふかぬにまくくもみちり

左文

葉はふは深ふかくく思おもの物ものくくもみちり

吼圭

泊とど岸ぎしに解ともくく返かへもみちり

芳楚

銀杏かた かいて

仮まつけのりへの花をくいとよ小

下弦施子
午仙

松不變色 まついろ
をかへむ

冬のもうく海にまふより松のいろ

加十

南天燭 なてんろう

あふや珠に海せうかけくをく

下弦施子
羽臣

賽珊瑚 さいさんご
どいも

野に水くをくしうめとど、或
洞壁味ハ小まの字や梅もどさ
あふうくあふいで見はや梅り
ふあのみあはあふせうく先り
見は人の鼻志づうるさうめとど

乙路
殊午
岷郎
少波
破了

栗 くり

あふ栗やよのまひ足の踏と下海
あふ栗やあふく程何家まのし名
あふ栗やふふと下海にあふ家ま
おちうりや毛袖もを根に二の三の

凉侍
理帆
宗瑞
芙白

同後の船を乗る 舟に子く
おち栗や 持ステゴ眼ゴに 差を 差せくゆく 双飛

椽子 ぐん

ぐんぐんの船に 如蓋の 暴アラヒ 舟フネ 見風

柿 かき

柿の味や 皮も 皮も 皮も 皮も 仙下流小見川老

梨 か

あまやぬに ところ ところ 梨の い 海 壺紀伊天草洲

柘榴 ざくろ

下をくりに さが 柘榴 柘榴 去路
あまの 船に 似く 柘榴 柘榴 乙路
あまの 船に 似く 柘榴 柘榴 里楓
あまの 船に 似く 柘榴 柘榴 涼宇
あまの 船に 似く 柘榴 柘榴 雨石
あまの 船に 似く 柘榴 柘榴 六柿
あまの 船に 似く 柘榴 柘榴 花明
あまの 船に 似く 柘榴 柘榴 眠石
あまの 船に 似く 柘榴 柘榴 笑牛

新本多^キは砂^キにむせくゆく松栢^キを 凉^キ侘

柑^みみ

神農も嘗^ハ身^ハくハ^ハま^ハふみ^ハかん^ハを 帛^ハ岡

包^ハ橘^ハト

並^ハ好^ハに良^ハ負^ハのお^ハふ^ハさ^ハか^ハく^ハト^ハハ 再^ハ可

金^ハ橘^ハト

金^ハ橘^ハや^ハ嗅^ハい^ハづ^ハハ^ハ猫^ハの^ハ色^ハま^ハハ^ハ 玄^ハ俵^ハ又^ハ加^ハ増^ハ自^ハ來

回^ハ青^ハ橙^ハだい

回^ハ青^ハ柳^ハの^ハ木^ハ卦^ハか^ハへ^ハり^ハう^ハま^ハく^ハま^ハき 凉^ハ奥^ハ越^ハ少^ハ斧^ハ用

饅^ハ頭^ハ柑^ハん^ハが^ハ柿

饅^ハ頭^ハ柑^ハや^ハそ^ハれ^ハく^ハ先^ハハ^ハ季^ハく^ハん^ハに 仙^ハ臺^ハ菊^ハ史

小^ハ柚^ハゆ

飯^ハ菑^ハく^ハき^ハに^ハの^ハつく^ハゆ^ハ味^ハ苦^ハ少 和^ハ在^ハ年^ハ中^ハ梅^ハ里

よ^ハは^ハき^ハれ^ハあ^ハく^ハと^ハ柚^ハを^ハそ^ハれ 千^ハ林

榎^ハ子^ハん^ハや

さびーしやや芳野を極子に思ふし後

桃隣

推子のいひ

子鞋に推子ささるるくおろしりき
極の美やまきく星べくまハ見えに

尺艸
涼傘

菓この

赤路並に滴の碓保このいりる

西洋

殊あきの

樹幅をえんとて遠きや路まくと

涼傘

み織若くあたぬ袖や路のく
さびーしやや芳野を極子に思ふし後
路の美やまきく星べくまハ見えに
ひそくと麻にゆくもや路はく
漕ぐゆく途もあうと路のく
多起く水もくく路のく
空網にけり路のく
逆旅婢
出女の備あうとやあきの
持にゆく路ハまきく星べくまハ見えに

双飛
六梯伊藤三ツク侯
兔夫
士高
青藍
眠石
芭叩
千竹
桐谷廣はよ山
凡山

古今和歌集卷之三

暮 殊 くあさの

ゆく沼やまのねほれ水に入侍
ゆ 秋やまの後にハ不とぎれ
小まよの かぶりハはびく 蕙の井
名のままぬ雨にまより 沼まく水
ゆ 沼や 持佛 香閣 ままをかひとや
懐ひくよよに 拵く 沼まく水
ゆ 沼や 西瓜の中 以水 中 春
ま 秋のまを 拵くや 麦はくけ
ゆ 沼のまも 拵くいとく 梅ま
枝にあ保 桐の一まや 沼のくま

尾池

理然

越中 渚川

知十

凉体

斗光

下 松

左菊

伊勢山田

吳雪

越後 正海

見風

林

林雅

萩

萩路

ま 牛 アカホ の 枝ま 拵く 沼のくま
ゆ 沼にまま 拵く 梅もあま 拵く
ま ぬ ナスビ 拵く 茶のまや 沼のくま
ま 瓜ハ 沼中 拵く 梅に 沼のくま
ま 沼のまま 拵く 梅もあま 拵く

林

醉菊

茶

茶亀

一

一鼠

梅

梅路

麥

麥林

